



新堀小だより

9月号

令和4年8月30日発行

元気いっぱい 夢いっぱい みんなが輝く新堀小学校
新堀小3つの約束「心のコモったあいさつ 時を守る みんな仲よく」

<http://www.c-niiza.ed.jp/e-shinbori/>



校長 若林 寿

Pura vida! (プーラ・ヴィーダ!)



人生を前向きに楽しく行こう!



在米中(コロナ禍以前)の夏休みのことです。美術館や博物館等の公共施設の視察のため、シカゴ市街地のユースホステルに、数日間滞在したことがありました。有名な施設で中南米、アジア、ヨーロッパ等、世界各国から多くの宿泊者があり、大きな建物の中には、交流するためのサロンやカフェテリア等のフリースペースが沢山ありました。多くのボランティアスタッフも施設内にいて、座っていると誰かしら話かけてきます。共通言語はもちろん英語です。当時、ネイティブスピーカーの英語が聞き取れない、発音を通じないとショックを受けていたときだったので、そこ(英語を第2言語とする人たちのための環境)での英会話は、ストレスをあまり感じない楽しいものとなりました。

多様な国の様々な年齢層の人たちと話しましたが、中でも印象に残っているのはコスタリカの方です。聞き取りやすい綺麗な英語、優しい言い回しで、不得手な私でも相手のリードで随分長い間会話をすることができました。その方は、年齢が30歳後半、職業は郵便局員でした。副業で文房具等のデザイナーもしていて、作品はインターネットで閲覧することができました。また、ハリウッド映画やロックミュージックを愛する半面、伝統芸能の継承者でもあり、そのことについても生き生きと語っていました。服装や髪型、話し方や立ち居振る舞いも素敵で、これまで素晴らしい教育を受け、豊かな人生を送って来ていることが容易に理解できました。中南米諸国への印象がとても変わったことと、未だに中南米諸国を日本より遅れた発展途上の国と思っていた自分を恥ずかしく感じたことを覚えています。その方から「Pura-vida プーラ・ヴィーダ」という言葉(コスタリカの言語であるスペイン語)を教えてくださいました。英語にすると「Pure life」、日本語では「純粋な人生」となります。コスタリカでは、この言葉を「よい生活」のシンボルとして捉え、日常的な挨拶(「こんにちは」、「元気?」)や人生を前向きにするポジティブな表現(「ありがとう」、「Ok!」、「素晴らしい」)として使っていると教えてくれました。その後、暫くしてからコスタリカが

「世界一幸せな国」と言われていること、そして、「Pura-vida プーラ・ヴィーダ」は、「人生を前向きに楽しく行こう!」というコスタリカの国民性を象徴する言葉であることを知りました。日本も「世界一幸せな国」と呼ばれるようになりたいと強く望みました。

コロナ禍となり、多くの改革が行われる中「Well-Being (幸福)」という言葉をよく見かけます。先日は、日本教育新聞で「幸せになる力」を高める研究についての記事を読み、大変共感しました。

Well-Being の考え方「幸せになれる力」

① SPIRE 論：人は5つの要素が Well-Being(良い状態)であると、幸せで満ち足りている(ハーバード大学 外・パ・ソ・ツハル博士)

※【5つの要素】

Spiritual(主体性・自己肯定感等)、Physical(心身の健康)、Intellect(知的好奇心)、Relational(人間関係)、Emotional(感情)

② 「4つの因子」が幸せの鍵(前野隆司氏：慶応大学院教授)

・やってみよう(自己実現と成長)

・ありがとう(つながりと感謝)

・なんとかなる(前向きと楽観)

・あなたらしく(独立とマイペース)

③ 心理的安全性(考えや気持ちを安心して発言できる状態)

これが高いと創造性や生産性が上がるといわれている。

子どもたちには、幸せ(Well-Being)を感じながら遅く成長し、そして、学校・家庭・地域社会に育まれ「幸せになる力」を高めて欲しいと願います。

学校評価から

学校評価に関するアンケートへのご協力、ありがとうございました。学校として以下の取り組みの強化や改善を行っていきます。

【重点】

「個に応じた学力向上」(No.4)

「保護者や地域の願いに耳を傾ける」(No.5)

「児童理解とその子に応じた支援」(No.8)

「子どもにとって分かりやすい授業」(No.12)

【改善点】

○各学級・学年間の連携の強化

・授業の進度(学年)

・宿題の量(各学年の系統性)

○授業参観の機会を増やす

○保護者説明会の実施

※この他、頂いた個々のご意見に対しては、できる限り個別に対応・改善をして参ります。